

## 1 調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

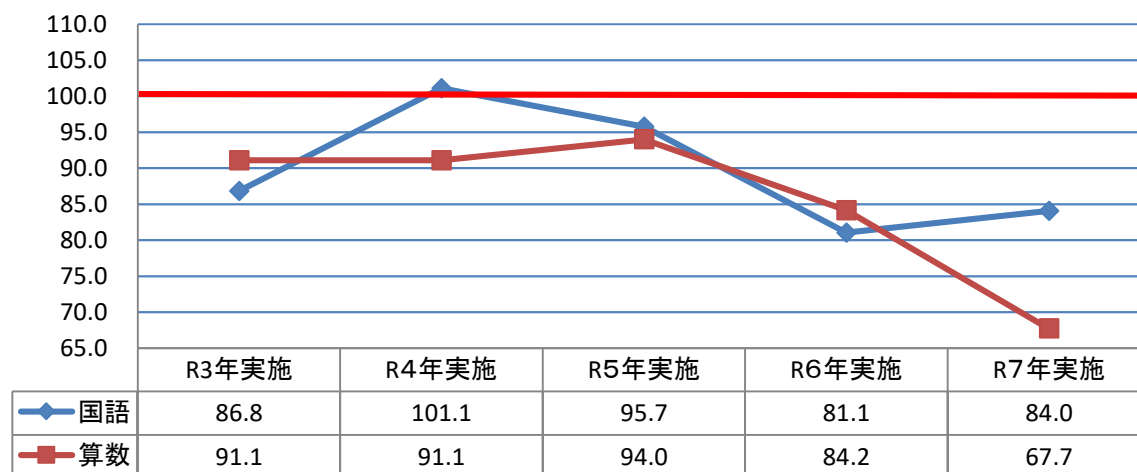
## 2 学校における学力向上に向けての取組

- 算数科を中心とした単元構成を工夫した習熟度別・課題別分割授業の実施
- 家庭学習の習慣化
- CD層の児童の実態に応じた朝の活動における基礎・基本の定着

## 3 調査結果(全国の平均正答数を100としたときの標準化得点)

	国語	算数
本校	84	67.7
嘉麻市	91.5	83.9
全国	100	100

## 推移



#### 4 各学校における分析

□本調査における国語科・算数科においては、短期指標に到達することができなかった。また、国語科の「話すこと・聞くこと」以外の内容、観点、問題形式の正答率が全国・県と比べて下回っていた。その要因として、算数科を中心とした単元構成を工夫した習熟度別・課題別分割授業等を各学年で行っていたものの、その成果や課題を学力向上委員会や学年部会で話し合う等が不十分で、検証サイクルが十分に機能していなかったことが考えられる。このことから、学力向上に関わる組織運営の見直しを行う必要がある。

□本調査におけるCD層の割合は、国語科が75P、算数科が81.9Pで、全国平均よりも約30P多かった。その要因として、家庭学習の支援や朝の活動における補充学習を行ってきたものの、CD層の児童の学習状況の把握が不十分で、実態に合わせた支援が行えていなかったと考えられる。このことから、CD層の児童の学習状況の把握を、単元等の短いスパンで行い、CD層の児童の状況を踏まえた、授業づくりや家庭学習の支援を行っていく必要がある。

□児童・生徒質問における「学びに向かう力」に係わる質問事項の結果を見ると、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」という質問が全国平均より20%下回っていた。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」という質問でも、全国平均より7%下回っており、さらに、「学習の内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」という質問も、全国平均より15%下回っていた。このことから、本校の子どもは、主体的に学習を進めることに課題があり、粘り強い取り組みを行っていく中で学習の進め方を自ら調整していくことができるように、自己調整学習を取り入れた教育課程を編成し、マネジメントを推進していく必要がある。

#### 5 各学校における今後の取組

□ 児童が学習の進め方を調整できる授業づくり【新規】

- ・学びを子ども自ら管理し、進めることができる授業づくり
- ・各教科における授業研究

□ 学習を自己調整できる家庭学習の充実【新規】

- ・うすい家庭共育ノート(家庭学習時間や内容のふり返し)
- ・子ども自ら目標を設定して行う自学やチャレンジプリント

□ 自己調整学習を取り入れた年間計画の作成【新規】

- ・自己調整を取り入れた教材集の作成
- ・嘉麻市の地域教材を活用した授業づくり

□ PDCAサイクルを回す組織運営【新規】

- ・検証サイクルの確立と役割の明確化
- ・授業チェックリストや学び方スタンダードを活用した授業の改善
- ・算数科におけるテストの結果の分析と授業の改善

□ 自己調整学習に関する校内研修の運営【新規】

- ・ワークショップやグループワークを取り入れた校内研修
- ・毎月授業づくりについての目標設定

#### 6 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

○子どもが進んで問題解決を図る授業づくりを推進することで、主体的に取り組む態度とともに、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

○小・中・義務教育学校とも、単元テストをもとに短いスパンで評価することを通して、一人一人の学習の定着状況を見とるとともに、個に応じた授業づくりを推進し、C・D層の子どもの学力向上を図る。

○家庭学習の充実や帯学習の取組など、組織的な学力向上の取組を構築することを通して、基礎基本の定着を図る。